



富士フィルムヘルスケア株式会社
代表取締役社長

山本章雄

2021年3月31日の富士フィルム株式会社への事業譲渡により、日立製作所の画像診断関連事業は、「富士フィルムヘルスケア株式会社」として新たにスタートいたしました。

世界中のさまざまな国や地域において健康に対するニーズはますます高まっています。高精度な診断による疾病の早期発見や低侵襲治療を支援する画像診断装置は、今後ますます重要性が高まります。またAIを活用した画像診断支援の開発が各社で進んでいますが、今後、ITやAIはヘルスケアのさまざまな分野で活用され、より付加価値の高い製品・サービスを創り出す源泉になっていきます。

このような背景の下、私たちは富士フィルムグループのヘルスケア領域における中核的存在の一つとして、これまで医療現場で培ってきた画像診断事業と、富士フィルムが持つ幅広い医療事業を相互に補完し強化することで、お客様に対してワンストップでのトータルソリューションを提供していきます。またグローバルな販売ネットワークを相互に活用することで、ニーズに対して迅速に対応していきます。

富士フィルムグループのメディカルシステム事業は、医療ITを核に据え、X線診断装置、マンモグラフィ、超音波診断装置、内視鏡など幅広いラインナップを展開し総合的なソリューションを提供しています。医療ITの分野では独自の画像処理技術に加え、医療現場のワークフローを支援するAI技術の開発と実用化を進めています。これらの製品は、私たちの画像診断装置と補完関係にあり、今後お客様への提案の幅は飛躍的に広がります。また富士フィルムがR&DやヘルスケアIT/ワークステーション事業を通じて蓄積してきたAIに関する知見は業界をリードしており、IT/AIプラットフォームを活用することで、これまでにない革新的な製品・サービスを創り出すことができることを楽しみにしています。画像診断分野での付加価値の創出には多大なるリソースが必要ですが、富士フィルムグループの一員となったことで、ヘルスケア領域での更なる成長とイノベーションの実現を確信しています。

人々が笑顔で健康に暮らせる社会の実現に貢献するために、私たちは変化に対応するだけでなく自ら変化を起こし、大胆な発想と果敢な挑戦により、ヘルスケアに新たな価値を生み出してまいります。今後とも皆様のご支援をお願い申し上げます。